

# 令和 5 年度赤穂市地区別懇談会 報告書



赤穂市社会福祉協議会

# 目次

1. 地区別懇談会の概要	2
2. 地区ごとの意見	
赤穂地区	3
城西地区	5
塩屋地区	7
西部地区	9
尾崎地区	11
御崎地区	13
高雄地区	15
有年地区	17

# 1.地区別懇談会の概要

## ■実施目的

令和4年度、第3次地域福祉推進計画の策定にあたり、地区別懇談会にて、地域で気になっていることやこれから目指したい姿などについて意見交換をしていただきました。令和5年度は、その中の「住民主体（自分たちでできること）」についてさらに一步深めて考え、住んでいる地区のこれからのまちづくりについて考える機会にすることを目的として、令和5年9月～令和6年1月に各地区にて懇談会を実施しました。

## ■参加者

各小学校区（8地区）のまちづくり連絡（推進）協議会のメンバー、又は自治会長・民生委員

## ■開催時期・参加者数

地区	開催日	場所	参加人数(人)
赤穂地区	1月12日(金)	中央公民館	25
城西地区	11月14日(火)	城西公民館	16
塩屋地区	12月8日(金)	塩屋公民館	24
西部地区	11月17日(金)	赤穂西公民館	20
尾崎地区	9月21日(木)	尾崎公民館	22
御崎地区	12月20日(水)	御崎公民館	15
坂越地区	—	—	—
高雄地区	11月16日(木)	高雄公民館	19
有年地区	1月9日(火)	有年公民館	18
合計			159

※坂越地区については、令和5年度の実施を見送っています。



## 赤穂地区のこれからのまちづくりを考えるための座談会 報告

令和4年度「第3次地域福祉推進計画」を作成する際に実施した懇談会の中で出た「住民主体でできること」について、さらに一步深める話し合いを行いました。



■日 時：令和6年1月12日（金）18時30分～20時00分

■場 所：中央公民館

■参加者：まちづくり連絡協議会 25名

■内 容： ①令和4年度に実施した地区別懇談会で出た意見の振り返り  
②他地域における住民主体のまちづくりについて紹介  
③赤穂市内の取り組み事例の紹介  
④意見交換『住みよい赤穂地区のまちづくりについて』

■まとめ：

少子高齢化により、子ども会やPTAの減少、地域のつながりの希薄化、組織役員の負担や後継者不足などの課題が多く挙がった。それらの課題に対して、組織の解散や見直し、行事を通して三世代が交流してつながりを作っていくといった意見があった。

【意見交換「住みよい赤穂地区のまちづくりについて」での意見】

○行事・取り組み・交流（課題）

- ・子どもが減っている、子ども同士の異学年の交流がなくなった
- ・地域の名簿が個人情報関係で作れず、交流の妨げになる
- ・少子高齢化、高齢者が多い自治会がある。高齢者ばかりで若い人は忙しい
- ・子ども会やPTAの減少
- ・近所付き合いの希薄化
- ・行事への不参加（特に若い人や子ども）。活動や行事の減少
- ・「子どものために」という気持ちが薄れている
- ・現状維持は無理
- ・福祉に関心はあるが、なかなか時間が足りない
- ・親同士の交流が少ない
- ・地域の人数がまちまち
- ・空き家の増加

## ○行事・取り組み・交流（取り組み）

- 人とのつながりを作っていく。向こう三軒両隣。近所付き合い
- 行事を通して子どもから大人まで交流する
- 話合いに若い人の参加を
- まちづくりに関心のある人を増やしていく
- 安否確認
- 集まる場に誰かが高齢者を迎えに行ったらどうか
- 地域性が変化している中どうするか
- 関心のある人をどう探すのか
- 小学校でのスポーツの推進
- 福祉は大人だけではない、子どもの福祉も考えないといけない

## ○組織について（課題）

- 子ども会、PTAの存続、協力をどう得るか
- 役員の成り手、人の世話をする人がいない
- 上下関係がない、魅力が薄い、子ども会の入会自由、やれる人がどれくらいいるのだろうか？
- PTAは任意加入、PTAや子ども会の解散後はどうなるか、行事ができなくなる
- 考える自分たちが高齢化している

## ○組織について（取り組み）

- たくさんの活動や団体がある。組織、会議などの見直し（解散、再編）
- 現状を維持することが大切
- 同じ人ばかり世話役になり、新しい人を増やす方法
- 協力してくれる人がいない、どう探すか。関心がある人を見つける
- 若い人が入りにくい。少しでも有償に
- 役割を与えて協力してもらう
- 今の現状維持
- 明るい目標を立てる
- 互いの暮らしを合わせに

## ■令和6年度へ継続した取り組み（社協案）

- 行事をきっかけに地域のつながりを作る
- 各組織の活動や組織再編を行い、できるだけ活動がしやすいかたちに変えていく

## 城西地区懇談会「自分たちでできること」 報告

令和4年度「第3次地域福祉推進計画」を作成する際に実施した懇談会の中で出た「住民主体でできること」について、さらに一步深める話し合いを行いました。



- 日 時：令和5年11月14日（火）19時00分～20時35分
- 場 所：城西公民館
- 参加者：まちづくり連絡協議会 16名
- 内 容： ①令和4年度に実施した地区別懇談会で出た意見の振り返り  
②他地域における住民主体のまちづくりについて紹介  
③赤穂市内の取り組み事例の紹介  
④意見交換『住みよい城西地区のまちづくりについて』

### ■まとめ：

行事等への参加者の少なさについての議論が活発にされた。城西地区は普段から小学校と連携した取り組みを行っており、そのつながりを生かした広報や、小学校への働きかけなどについての話が多く出た。一方で、自治会の体制についても検討が必要との意見があった。

### 【意見交換「住みよい城西地区のまちづくりについて」での意見】

#### ○行事・取り組み・交流について

- ・昔からの付き合い・つながりが多い
- ・子どもとの関わりが希薄（小学校のしくみを生かすと良い）
- ・公園を利用してスポーツをして三世代交流（輪を広げる）
- ・行事をしない期間が長いと復活が難しい

#### ○自治会の体制について

- ・役決めは抽選 or 順番
- ・活動的な人は多いが、同じ人に負担がかかりそう
- ・活動の縮小化→後任に負担がかかる
- ・自治会内のヘルプの声出しが下手

### ○行事等への参加について

- 老人会、高齢者大学の加入率が減少
- 仲間がいるとやりやすいが、それ以上は増えにくい
- 行事等に人が出て来ない（参加が少ない）
- 子どものことになると関心あり。子どもと親の参加には子ども会の協力が必要
- 参加するための仕組みが必要（参加すると楽しいことを知ってもらう）
- 広報の仕方でも変わる→自治会のお知らせの上の方にする

### ○城西地区の活動について

- 毎年の防災訓練
- 登下校時の朝の見守り
- ラジオ体操
- Jサポーター20名（保護者5名→会社を休んで来てくれる）母+祖母など

### ○その他

- 「最低限」を大切に続けていく
- 自分が元気であること
- 頼まれればやるが…
- 地域に手を挙げる人（協力者）は本当にいるか？

### ■令和6年度へ継続した取り組み（社協案）

- 今のつながりを生かした小学校との連携した取り組み  
⇒行事や広報など、子どもと親へ地域行事の参加を促す
- 自治会の体制や役割分担、行事内容の検討

## 塩屋地区のこれからのまちづくりを考えるための座談会 報告

令和4年度「第3次地域福祉推進計画」を作成する際に実施した懇談会の中で出た「住民主体でできること」について、さらに一步深める話し合いを行いました。



■日 時：令和5年12月8日（金）19時20分～21時10分

■場 所：塩屋公民館

■参加者：まちづくり連絡協議会 24名

■内 容： ①令和4年度に実施した地区別懇談会で出た意見の振り返り  
②他地域における住民主体のまちづくりについて紹介  
③赤穂市内の取り組み事例の紹介  
④意見交換『住みよい塩屋地区のまちづくりについて』

■まとめ：

秋祭りや夏祭り、ふるさとまつりなど、地区での恒例行事を通して多世代が交流することの大切さを感じておられる方が多く、伝統的な荒神社の秋祭りがある塩屋地区ならではの意見であった。また、各組織のリーダーの負担や今後の育成についての意見も多くあった。

【意見交換「住みよい塩屋地区のまちづくりについて」での意見】

○行事・取り組み・交流について

- ・コロナ前の行事復活（祭り・各団体のイベント）
- ・行事（秋祭り、盆踊り、ふれあいスポーツ大会、ふるさとまつり、ラジオ体操、農業、野菜販売など）があれば、人とのつながりが戻り、まちづくりや地域の活性化につながる
- ・誰もができる楽しい活動、集まりの場をもつ
- ・学校と地域とのつながりが大切
- ・保護者の参加率を上げるための集会等
- ・若い世代から高齢者までいろんな世代を巻き込んで話し合う機会をつくる（若い人が望むまちは？）
- ・近所付き合い
- ・今日のような集会在またありますように!!



## ○リーダーや組織について

- リーダーは必要だと思うが、リーダーへの負担が大きくなってしまふ。特に小学校、中学校、自治会など同じ人に負担が偏る
- リーダーになる人が少ない
- リーダーシップをとる人が大切。リーダーがいればみんな協力する
- 役員の人選とリーダーになる人格を育てていく。見つける
- いろんな人にいろんなことをやってもらうような活動にしていく。内容を見直す
- 今後のキーワードは世代交代、ポイントは人
- 組織の横のつながり
- 各種団体の取り組み・活動内容のPR
- 塩屋地区は赤穂市内で一番良いところだと思う。良い人を伸ばす

## ○その他

- 少子高齢化への取り組みをどう進めるか？（共助）
- イノシシやシカの問題
- 学校に世話になっている認識、協力、必要性
- 人のお世話をするためには、寄付金やお祝い金に関係する
- ボランティアカ

## ■令和6年度へ継続した取り組み（社協案）

- 塩屋地区に元々ある地域のさまざまな行事を継続し、行事を通して三世代の交流やつながりづくりにつなげる
- リーダーになる人の育成方法や組織の再編について検討する

## 西部地区まちづくり座談会 報告

令和4年度「第3次地域福祉推進計画」を作成する際に実施した懇談会の中で出た「住民主体でできること」について、さらに一步深める話し合いを行いました。



- 日 時：令和5年11月17日（金）19時30分～21時05分
- 場 所：赤穂西公民館
- 参加者：まちづくり連絡協議会 20名
- 内 容： ①令和4年度に実施した地区別懇談会で出た意見の振り返り  
②他地域における住民主体のまちづくりについて紹介  
③赤穂市内の取り組み事例の紹介  
④意見交換『住みよい西部地区のまちづくりについて』

### ■まとめ：

空き家、交通の便、住民の少子高齢化などの課題に対して、行事や集まりを通して子どもと一緒に交流すること、集会所の開放など交流に関する案が出た。実際に西小学校主催で懇談会が開催され、児童と住民との交流がされた。

### 【意見交換「住みよい西部地区のまちづくりについて」での意見】

#### ○西部地区について

- 空き家問題
- ビシャゴ岩、福浦ふっくらコットン、夫婦楠→多くの人に来てくれる
- 車の便が悪い？
- 大人になっても住みたいまちづくり
- 一人暮らしどう見守る？
- 店が必要
- 家が建てられない！？

#### ○自治会・まちづくり連絡協議会の体制について

- 単位自治会で何かするのは難しいのでは？⇨小学校単位、まちづくり単位の活動は難しい
- 役をずっと同じ人がやっている
- 継続には“和”が必要。リーダーのパワーが必要
- 世代交代が上手くいかない

## ○参加について

- 会への欠席増
- 若い人の参加が必要→若い人も忙しい
- 地域より個人の都合を優先するように変化
- 世代ごとの考え方が違う
- 女性も参加しやすいように
- 初めて参加した人がどういう印象を持つか
- 人集め（人の行くところに人は集まる）

## ○行事・取り組み・交流について

- 昔の良いことを残していく（山、川遊び）
- 三世代交流は必要だと思うが、財源をどうする？
- コミセンでイベントをすると電車を利用しなければならない
- 西小フェスティバル→今度開催予定。子どもたちが地域の人をゲームなどでもてなしで交流する。初の試み
- 夏休みに集会所で子どもも一緒に集まったら良い
- 子どもが楽しめる行事（モルック、ディスクッターなど）
- 一人暮らしの人でも気軽に行けるような場所づくり
- 老人会で計画中（案）→みんなで集まって季節に合わせて手作りの料理を食べたり茶話会をする
- 自治会で空き家を活用した店を営業→日用品などを売れば、高齢者が歩いて行ける
- 地域で集まる場が減っている→時代の変化で難しい
- カラオケやお酒を飲む機会（宴会）がない→コミュニケーションの場がない
- 環境保全会（草刈り：年に10回、溝掃除）→草刈り機、軽トラ持ってない人は参加しにくい

## ○その他

- 人が寄ってくるには和が必要！！相手を想うこと
- 悪口よりもほめることが大事

## ■令和6年度へ継続した取り組み（社協案）

- 地域と学校が協力した交流や活動を支援する
- 集会所や空き家を活用し、交流できる場づくりを検討する

## 尾崎地区まちづくり懇談会 報告

令和4年度「第3次地域福祉推進計画」を作成する際に実施した懇談会の中で出た「住民主体でできること」について、さらに一步深める話し合いを行いました。



- 日 時：令和5年9月21日（木）19時00分～20時35分
- 場 所：尾崎公民館
- 参加者：まちづくり連絡協議会 22名
- 内 容： ①令和4年度に実施した地区別懇談会で出た意見の振り返り  
②他地域における住民主体のまちづくりについて紹介  
③赤穂市内の取り組み事例の紹介  
④意見交換『住みよい尾崎地区のまちづくりについて』
- まとめ：

行事や交流についての意見が多く、特に若い世代との意見交換やまちづくり活動への参加を望む声が多かった。尾崎地区は小学校と連携してまちづくりに力を入れていることから、交流事業を通じてのまちづくりが取り組みやすい様子だった。

### 【意見交換「住みよい尾崎地区のまちづくりについて」での意見】

#### ○行事・取り組み・交流について

- 高齢化対策（子ども・高齢者の見守り）、近所の助け合い
- 企業誘致
- 自治会の行事、スポーツの行事のスタイルを変える（例）行事には出来るかぎり小、中、高校生などの参加を募る
- 活発な三世代交流
- 行事や声かけなどタイミングをはかる
- 行事に新しい事を始めて、関心を持つ人を増やす
- 地区ごとに色々な取り組みを行う
- 住民同士で交流・意見などを話し合う

### ○若い世代の参加について

- まちづくり＝人づくり。核となる役員のなり手不足を解消する  
(例) PTA から自治会活動へ移行できるシステムづくりや、行事に若い人の参加  
グラウンドゴルフに中学生の参加  
盆踊りでも若者向けの踊りを入れるなどの工夫
- 若い人に参加をしてもらう努力や環境づくり、若い人のアイデアを生かしたイベント作りが必要⇒行事の重要性

### ○自治会・まちづくり協議会の活動について

- 若い世代（30代～50代）を自治会活動に参加してもらう意識づけ
- 自治会に関わる人材の育成
- 幅広い年齢の人、関心を持つ人、できれば若い人のまちづくりへの参加者募集
- 地区自治会の再編

### ○その他

- 子どもの人数が少ない
- 高齢化

### ■令和6年度へ継続した取り組み（社協案）

- 若い世代との意見交換（PTA などを通じて）の場の設定  
⇒イベントの検討や三世代交流など、まちづくりの活動に関心を持ってもらうことで、交流の活性化、行事の参加者増加、人材育成などを図る

## 御崎地区懇談会「住みよい御崎地区のまちづくりについて」報告

令和4年度「第3次地域福祉推進計画」を作成する際に実施した懇談会の中で出た「住民主体でできること」について、さらに一步深める話し合いを行いました。



- 日 時：令和5年12月20日（水）19時00分～20時30分
- 場 所：御崎公民館
- 参加者：まちづくり推進協議会 15名
- 内 容： ①令和4年度に実施した地区別懇談会で出た意見の振り返り  
②他地域における住民主体のまちづくりについて紹介  
③赤穂市内の取り組み事例の紹介  
④意見交換『住みよい御崎地区のまちづくりについて』

### ■まとめ：

地域内のコミュニケーションの場が減り、つながりが減ったことについて、実感を伴う話が参加者から多く出た。また、高齢者と若い人とで考え方の違いがあることについても触れられた。また、地域によって高齢者の割合が高いところ、若い世代の割合が高いところとがあり、交流の機会が無いことで、よりつながりが希薄になっていることが指摘されていた。

### 【意見交換「住みよい御崎地区のまちづくりについて」での意見】

#### ○行事・取り組み・交流について

- 近所でのコミュニケーションが不足してきている
- 集まりの場が少なくなっていて、どんどんつながりが薄くなってきている。集まれる場をつくるのと、それを継続して続けることがポイント
- 隣近所に声をかけても中々会話が続きにくいことがある。時代の流れもあると思うが、どうしていけばいいのかわからない
- コロナの影響もあるが、住民が集まる機会が減ったのと、何か行事をしても出て来ない人がいる
- 飲み会や雑談する場がない（特に男性）

○若い世代の参加について

- 自治会内でも、若い人が多い地域と高齢者が多い地域があり、考え方に違いがある（地域より仕事が優先など）
- 若い世代は地域の活動のことなどがよく分かっていないと思う

○自治会・まちづくり協議会の活動について

- 地域に高齢者しかいないため、参加できる人が少ない
- 役員の高齢化

○その他

- 自分の地域では、ゴミ出しの際に声掛けをしたり、入院したらお見舞いに行く習慣が残っていて、良いと思う

■令和6年度へ継続した取り組み（社協案）

- 地域での三世代が集まる場や行事の検討
- 若い世代との意見交換（PTA などを通じて）の場の設定  
⇒地域の現状について若い世代との情報共有する場を持つ

## 高雄地区懇談会 報告

令和4年度「第3次地域福祉推進計画」を作成する際に実施した懇談会の中で出た「住民主体でできること」について、さらに一步深める話し合いを行いました。



- 日 時：令和5年11月16日（木）19時20分～21時00分
- 場 所：高雄公民館
- 参加者：まちづくり連絡協議会 19名
- 内 容： ①令和4年度に実施した地区別懇談会で出た意見の振り返り  
②他地域における住民主体のまちづくりについて紹介  
③赤穂市内の取り組み事例の紹介  
④意見交換『住みよい高雄地区のまちづくりについて』

### ■まとめ：

意見の大多数が行事の取り組みについてであり、高雄地区では以前からスポーツを通してのまちづくりが推進されており、年齢関係なく一つのことに力を合わせることができる、運動会の復活を望む声が多かった。そして地域の少子高齢化が進行する中で若い世代とコミュニケーションを取ることで、自治会や地域の活動に関心を持ってもらいたいという意見があった。

### 【意見交換「住みよい高雄地区のまちづくりについて」での意見】

#### ○行事・取り組み・交流について

- 祭（老いも若きも笑顔で前向きに参加する場づくり）
- 運動会（連合運動会、スポーツ大会、つなひき、地区対抗運動会）
- スポーツでまちづくり（多世代で参加したり一致団結できる行事の開催）
- 行事の復活
- 地区の人を知るため多数参加の行事をする
- 老若男女みんなが楽しく、自ら関わろうとする→ふるさとに帰ってくる
- 皆が一つのこと（楽しいこと）に目を向けられることが必要



○若い世代の参加について

- 自治会役員と若い世代の意見交換の場を作る、コミュニケーションをとる
- 若い力の引き出し方
- 関心のある人を見つける（獅子舞とか興味の持てることをもっと考える）
- 若手リーダーの育成

○自治会・まちづくり協議会の活動について

- 地域のリーダーを育成。コミュニティの場を作る
- 自治会などの取り組みを公開

○その他

- 高雄地区に当たり前にあるもの（キャンプ場、野菜、果物）を外部に向けて提示

■令和6年度へ継続した取り組み（社協案）

- 多世代が交流することができる行事（運動会）の開催に向けて検討会を開催する  
⇒検討の段階から若い世代とのコミュニケーションの場を持つことで、行事だけでなく、今後のまちづくりについての検討もできるようになる

## 有年地区意見交換会 報告

各自治会長と民生児童委員とで日頃の活動や地域のこと、自分たちにできること等について、意見交換会を行いました。



- 日 時：令和6年1月9日（火）15時00分～16時40分
- 場 所：有年公民館
- 参加者：自治会長、民生児童委員、市議会議員（有年地区） 18名
- 内 容： ①自己紹介・意見交換『有年地区のまちづくりについて』  
②全体共有・まとめ
- まとめ：

交通の不便さや人口減少など、有年地区全体の課題についての意見が多く出てきた。その中でも交流や居場所、行事についての意見や、参加者が普段の活動の中で感じているジレンマについての意見も多く見られた。

### 【意見交換「有年地区のまちづくりについて」での意見】

#### ○有年地区について

- ・人がおらず出てこないで、サロンを立ち上げたり訪問活動をしている
- ・病院も店もなく、魅力がない
- ・道路の整備など交通の面も考えないと人は増えない。仕事先もないため、若い人は都会に行ってしまう
- ・エリアが広く、点在している。どこか一カ所に集まるためには足の問題がある。個々には数人でも集まっているため、それを大切にしていく
- ・昔と比べて今は高齢者ばかり。子どもも少なく地域のパワーも少ないが、行政だけに頼っても仕方ない。地域でできることを考えていくしかない
- ・災害時の見守りなど、ある程度は分かる
- ・地区の拠点のコミセンだが、そこまで行けない人もいる。動ける人は町外へ行く
- ・跡地の活用…JA→駐車場になるため×。くらしの店→移動販売や新たな店舗に thought したが、冷蔵庫が壊れているため×
- ・とくし丸（生田町）、あましお丸が来ているが、利用者は減っている印象（商品が少ない？来なくなれば困るため利用されている人もいる）。個配は利用している人が多い

## ○行事・取り組み・交流について

- 声掛けが大切だと思うので、自治会からや住民同士等で声掛けするよう心掛けている
- 子どもたちも楽しいと感じてもらえれば地域の交流が生まれると思う
- 子育てしやすいまちづくりを目指すことが大切
- 取り組みを継続することが大切
- 住民同士で見守りをしているが、人によっては個人情報を出してしまう人がいるのは問題。普段からの関係性も大切
- コミュニティの希薄化が課題
- 今ある行事（もちつき等）に休憩時みんなが交流する場を作ったり、あいさつ運動など、できることから交流しやすいように考えるのが良いと思う
- 知り合いを増やすこと⇒コミュニティづくりにつながる
- 秋祭りやとんど等準備する人が高齢化し、参加者も年々減少している。子どもが参加すれば保護者も参加する。若い人が参加しやすい行事を考える必要がある。地区によっては盆踊りやとんどなどを止めたところも。地域を維持していくことが難しくなる
- 公園に桜を植えて、近所の人交流する場を作っても良いと思う
- 集まっていた喫茶店の店主が亡くなり居場所がなくなった。居場所は大切
- コロナにより行事を簡単にやめるようになったが、再開は難しい
- ある程度の規模で集まった方が人数を確保でき、行事や活動につなげやすい

## ○自治会・まちづくり協議会・民生委員の活動について

- 若い人にも仕事を依頼して自治会活動に参加してもらうように工夫している
- 自治会同士のつながりも必要
- 役員の負担が多い。民生委員も受けてくれる人がいない
- 自治会を抜ける人がでてきた
- 口頭での伝達ではなくマニュアルがあれば役員の受け手が出てくるのではないかと
- 民生委員には守秘義務があり、その点は気をつけている。役があると大変だが、やってよかったと思う人もいる。また、民生委員を知らない人がいる。対象者宅を1人で回ったが、数が多く大変だった
- 対象者の緊急連絡先の把握が難しい（台帳登録時に把握しているが、時間が経過すると変更していることもある）
- 亡くなったことなど、情報が得にくくなった。個人情報もあり、情報共有をどこまでしてもよいのか…
- 事業対象者になる場合は本人へ直接連絡してもらい、希望者は民生委員へ連絡するようできないか
- 老人会に入らない
- 拒否される人もいるが、訪問は喜ばれる（関わりを求めている人は多い）
- 活動を広げると後につないでいくことが難しくなる。そのため活動を広げにくい→個人で活動する方が楽
- 井戸端会議をしている人が、地域の色々な情報を教えてくれる

## ○その他

- 赤穂市の人口が減っている原因を考える必要があるが、まずは各家庭での話し合いが必要ではないか。また、転出した人に対してアンケートを取ることにも有効だと思う。それについては、赤穂市や赤穂市議会に対応してもらいたい
- 能登半島地震が起きたが、政府の対応が悪い。電気が通っていないのは、避難所に発電機がないから。液状化の対策、避難所の水タンクの設備など備蓄管理も不十分
- 住民の顔は知っているが、年齢別の人口が知りたい

## ■令和6年度へ継続した取り組み（社協案）

- 定期的な意見交換会の開催  
→それぞれの活動についての情報共有を行い、連携を深める
- 交流事業など、各自治会での取り組み内容の検討  
→小・中学校と連携することで、保護者（若い世代）に参加してもらう

